

令和5年度 木の実幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 今川学園 理事長

木の実幼稚園 園長 今川公平

○本園の教育目標

- 生活指導上の基本目標
 - あいさつが出来る ・感謝の気持ちが持てる ・けじめがつけられる ・自分のことは自分で出来る
 - 友達のことを思いやる事が出来る
- 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。
 - 造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、喜ぶ心を育てる。
- 自分で考え、行動できる子どもを育てる。
 - いろいろな事柄、事象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。
- 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びが工夫できる子に育てる。
- いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

A、令和4年度に取り組んだ事業の評価項目

項目	内容
1	ポストコロナ時代に対応した幼稚園諸行事の再構築
2	教職員の働き方改革の推進
3	新ホール建設工事計画決定および工事着工決定
4	教職員募集体制の再構築

B, 評価項目の設定理由

項目	内容
1	<p>令和5年5月末には、新型コロナウイルス感染症は法的規定が変更され、2類から5類となる。令和4年度は感染流行の波の収まりが見えてきた中で、過去3年間の中で、本園が取り組んできた様々な対応、経験に基づき、幼稚園諸行事の新しい在り方が見えてきた。これを整理し、教育の質向上につながる諸行事を構築したい。</p>
2	<p>社会挙げての働き方改革の推進も、2018年以降法的基盤が整理され、本園でも様々な取り組みを行ってきたが、この数年の取り組みの進展を振り返り、次につながるあり方を検討、実行したい。</p>
3	<p>過去4年に渡って、新ホール建築計画を練り上げてきたが、本年末には施行業者の決定、着工を目指し、令和5年度中の完成にこぎつけたい。</p>
4	<p>全ての産業で人材不足が進行しており、特に保育・幼児教育界では、保育所・こども園の増加の中で、著しい保育士不足が進行している。その中で、幼稚園教諭に対する社会的認知度が下がり、この数年は求人難が続いている。従来の方法ではない、新しい募集体制の構築が急務である。</p>

C. 評価項目ごとの具体的目標と取り組み

項目	内容
1	<p>コロナ禍の中では、三密の回避という対応がとられ、特に行事の実施については、「分散化」が基本となった。この中で運動会の実施については、午前・午後の二部体制としたが、人数が分散化する事で、保護者・園児・会場設営・教員のサポート体制等、多くのメリットがあった。この為、今後の運動会は二部体制での実施を基本的な方針とする。(ただし、一日に2回実施するという事は教職員の負担となるので、その課題の解消が必要である)</p> <p>また、従来実施してきた夏期のお泊り保育は中止とし、デイキャンプに切り替えたが、子どもの経験としては、デイキャンプで十分である事が判明した。また子どもの身の自立が年々低下する中で、幼児期の宿泊保育はかえって過度な負担となるケースもあり、更に教職員の労働時間の観点からも、ほぼ終日休憩時間も取れないなどの過重労働となっていたこと等に鑑み、今後は宿泊保育に代わり、デイキャンプを積極的に実施する。時期も真夏の実施を取りやめ、自然の彩も豊かになる秋に実施する事とした。</p> <p>加えて、学年の春・秋の遠足も観光バス利用で遠方に学年ごとに行く形だけではなく、各クラスの子どもの興味・関心に応じて近隣の施設や公園など、さまざまな場所に出かけ、経験を深める柔軟な遠足の在り方を実施する事にした。</p>
2	<p>本園では、既に教職員の働き方のマネージメントをより丁寧に行い、多くの会議の見直し、残業時間の短縮、時間制の有給休暇取得に加え、残業代の完全支給を実施してきた。これに加え、各クラスの園児数の抑制し、全クラス25人以下とする少人数学級を実現し、負担軽減を図ってきたが、これらの体制が揺るぎのないものになるよう、ICT等も積極的に活用して、教職員相互の意思疎通と連携をより一層進めた。</p>
3	<p>新ホールの基本計画案がまとまり、一階を子育て支援ルームとし、絵本とおもちゃのライブラリーを持ったルームを2つ設置し、預かり保育、ナースリークラス、オープンクラス等で活用できる空間とする事。また2階は遊戯室スペースとし、入園・始業式等でも活用できる広い空間としてデザイン。設計・管理は過去の園舎建築で実績のあるモノスタ70建築設計事務所に決定、令和4年7月に契約した。また工事施工は、2社見積り結果、(株)林建設と決定。工事着工は令和5年2月1日、竣工は同年10月末日と決定した。</p>
4	<p>従来の次年度願書受付以降に、次年度新任教員募集を行う体制は、既に時代遅れとなり、新年度開始早々の春から求人業務を開始する事が必要であり、令和4年度は5月から7月に民間の就職フェアに複数参加、また教員養成校にも積極的にアルバイトやボランティア学生を募集し、採用につなげる新しい体制を取った。また、インスタグラム等で、積極的に情報を開示し、木の木の教育の魅力を発信する体制も継続して実施した。</p>